

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971400227		
法人名	有限会社エムティーケイ		
事業所名	グループホーム やわらぎ		
所在地	奈良県生駒郡平群町上庄三丁目7番25号		
自己評価作成日	平成30年6月3日	評価結果市町村受理日	平成30年7月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成30年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「高齢者に敬愛の念をもち安心してゆったりと暮らしていただけるように生活環境を整えます」  
手を止め話を聞き一人ひとりに寄り添い対応します。ご本人のペースを大切にします。  
職員は環境の一部だと考えさりげない支援を心がけています。  
三郷町のやわらぎ会グループの施設ですので医療面ではやわらぎクリニックの院長、副院長が月1回の往診と健康面でバックアップしてくれるので安心して生活できます。また訪問看護とも連携していますので定期的な訪問があつて安心です。これまでもホームで家庭的な雰囲気の中看取りケアについても10件以上の実績があります。本人の思いは当然ながら残される家族の思いも大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年の事業所開設時から、高齢者に敬愛の念を持ち、利用者が安心してゆったりと家庭的な生活が出来るように、職員全体で話し合いながらケアサービスを提供されています。自治会にも参加して、奉仕活動にも積極的に参加し、地域の一員として日常的な交流も図られています。家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援に取り組み、事業所開設時から十数件の看取りを経験され、体制づくりも十分にできています。また、利用者が亡くなった後にも職員全体でケアを評価して改善策を検討する等、ターミナルケアに継続的に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共同スペースの壁の見えやすい場所にプリントして貼ってあります。	事業所開設時から地域密着型サービスとして何が大切かをよく考えて、母体組織の理念ではなく、独自の理念をつくり、ケアに取り組んでおられます。	理念は玄関とフロアに掲示されていますが、その理念を職員全体で共有できるよう一人ひとりが理念を理解し、具体化しながら、日々のケアに活かされる事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中に近所の方とご挨拶したり近所に買い物や食事にでたりしています。梅雨に入る前に畑でできたジャガイモを少しずつですがご近所の方にお配りして食べていただきました。また利用者さんと相談して何か育ててみようと思います。	自治会に加入して、奉仕活動にも積極的に参加されています。また、事業所の畑で採れたジャガイモ等を近所にお裾分けしたりして、地域との交流を深めておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の見守りのネットワークにも活かしていただけるような理解や支援の方法を伝えていけるようにこれから少しずつでも出来る事を見つけていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	もう少し回数を増やしているんな意見をもらいながらもっと心地よい場所になるようにしていきます。	運営推進会議は5月に開催されました。役場や地域包括等の参加の下、事業所の状況報告や情報交換を行い、運営やケアサービスに活かしておられます。	運営推進会議は事業所が地域密着型サービスとしての役割を果たし、地域の人等から理解と支援を得る大切な機会です。年間計画を立てる等して、2ヶ月に1回開催される事を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一緒に考え悩んで、協力関係築いていきます。笑顔で対応してくれるので何でも話しやすいです。	運営推進会議で現場の状況を伝えたり、頻りに役場に足を運んで課題解決に向けた話し合いを行い、情報を共有しながら連携を深めておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に勉強しながらみんなで正しい理解をしていきます。防犯のため玄関の鍵は閉めていますが希望があればいつでも出かけることができます。	職員は研修会等で身体拘束をしないケアを十分に認識して、利用者が自由に暮らせる支援を心がけておられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	みんなで皮膚状態の観察、みんなで利用者の表情などから適切なケアがされているのか気付き考えられるような環境も大切にしながら注意を払うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい制度なので研修会にも参加していこうと思う。今まで二件ほど活用できるように話し合ったことがあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度家族、利用者の不安や不明な点には説明し理解、納得していただけるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問題点、不明な点、要望は会議などを通じ代表者等に改善申し入れしている。	家族の面会時等に意見や思いを言いやすくするため、日頃から家族とコミュニケーションを取りながら積極的に意見等を聴く努力をされています。また、意見反映の為に家族アンケートも検討されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し意見や提案をしっかり受け止めて反映していけるようにしていきます。	管理者は、日頃からコミュニケーションを図りながら、職員が意見を言いやすいように心掛けておられます。また、母体の職員との食事会等も実施して意見が反映される取組も図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在働く職員の環境を見直し条件の整備をしているところです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加の促しや資格取得の為の勤務表の調整など協力し進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域運営推進会議で周辺の施設にも声をかけさせてもらい情報交換を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり話しをしやすい雰囲気を作りながら声をかけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には様子をしっかりお伝えし対応についてこちらでわからない点は相談させていただくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の希望の相談には例えば訪問マッサージをうけたいとあれば主治医と相談して指示書をだしてもらうなどの対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に利用者を支えるということで家族それぞれお忙しい中理解と協力を頂き相談しながら支援体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームへの訪問大歓迎です。一緒に外出される場合には家族さんの了解を得て外出していただくことも可能です。	利用者がこれまで大切にされてきた友人の訪問もあり、利用者一人ひとりの馴染みの関係が継続するような支援をされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分の居場所である席をきめているがテーブルの配置や席順は常に関係性を検討し一人ひとりの関係がつながるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約関係が途中終了するということが事例として少ないが家族にお会いした際にご様子について伺うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や性格などから、また家族とも相談しながら職員目線だけでなく本人の目線にたち検討している。	利用者との日頃のかかわりの中で、言葉や表情などから真意を測ったり、意向の把握が困難な利用者には家族から意見を聞くなど利用者一人ひとりに配慮した取り組みが図られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを支援につなげることができるよう情報の収集につとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤から夜勤、夜勤から日勤へ業務日誌を使い申し送りをしっかり行い休暇中の状態についてもしっかり業務日誌を読み込んで情報収集に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネの移動などもあり追いつかないところもあるが現状に即した計画作成に努めています。	利用者がその人らしく暮らし続けるための個別計画を職員全体で意見交換をしながら作成し、気づき・意見・要望を反映した計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の言動、表情など気づきや利用者の日々の様子の生活について職員の気づきなども含めて利用者別に記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば専門医の診察に家族に代わりお連れすることがあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前パン教室に行ってみたいという利用者さんの希望があり送迎など対応したことがあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を確認しつつ主治医に相談、本人や家族の望む適切な医療を提供できるように支援している。	受診は利用者・家族の意向を大切に、希望する医師の受診ができるように支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かなことも相談、指導、助言、主治医との連携も適切に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中利用者を訪問して看護師や相談員と情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に出来る事、出来ないことを説明した上で家族の思いを書面にて確認させていただき、入所後その都度家族の思いについて看護師、主治医とも話し合いを繰り返すようにしている。本人の思いはもちろん大切だが残される家族の思いも大切にしたいと考えています。	家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援に取り組み、事業所開設時から十数件の看取りを経験され、体制づくりも十分にできています。また、利用者が亡くなった後にも職員全体でケアを評価して改善策を検討されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、マニュアルに沿って対応できるように研修会をおこなう。救命救急士の方に指導していただく機会もありました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人での協力体制の確立、ご近所への働きかけも少しずつ理解と協力を得ながら体制を整えていきます。避難訓練、通報訓練年2回実施。	避難訓練は年2回実施されています。備蓄も水等を事業所内に確保され、災害に備えた準備も出ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は〇〇さんと苗字で呼びます。ご本人のこだわりを大切に声かけします。	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねるような声かけはしない事を徹底されています。また、たまに職員の指示的な言葉かけがある時は、管理者が即座に対応して注意を促されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのペースも大切にどうしたいかを自己決定できるように声かけに工夫するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者の生活を優先するため業務にマニュアルはありません。常に利用者の様子を見て対応する。利用者のタイムスケジュールはありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時着替えを選ぶときにはご本人に選んでもらったり訪問美容サービスでパーマや毛染め、毎月顔そりしてほしいなどの希望に添えるように対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できあったものを専門の業者に持ってきてもらうので調理はしない。盛り付けをスタッフですることが多く、利用者には食事前にテーブルを拭いてもらったりお盆を拭いてもらったりしている。	利用者の好みを大切にしながらメニューを考え、食事が楽しくなるような支援をされています。また、2階の利用者は下膳も職員と一緒に行う等、作業を通じて利用者の自信や喜びになり、心身の機能向上にもつながっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	何をどれだけ飲んでいるかチェック表を使い確認している。好きな味、嫌いな味の把握にも努めている。嚥下力の低下気味の方にはトロミ粉を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状況に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を使い排泄パターンを把握に努めオムツの使用が減らせるように支援している。	排泄支援は、利用者の身体機能に応じてプライバシーを損ねないように配慮しながら、手を差し伸べたり、歩行介助をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主食に押麦混ぜたり、牛乳やヨーグルトの提供の実施、また散歩したり身体を動かすようにしたり予防につとめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の嫌いな方、嫌がる方にはご本人のタイミングをつかめるように、声かけの工夫やご本人状態、様子などもみながら待ち更衣や足浴だけに留めることもあるが無理強いすることのないように努めている。	入浴したい日や時間を決めずに利用者のその日の希望を確認しながら、週2回の入浴支援をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子を見て早く休んでいただいたり、日中少し布団に入って休んでいただき身体を伸ばしてもらるように支援している。室温や掛け物にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は飲み込みがしっかりできているか職員が注意して見守っている。薬の変更時には利用者に変化がないか様子についてしっかり見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	多くはできないがそのように支援する努力はしている。農家の方なら畑の野菜づくりを教えてもらいみんなで育ててみんなで収穫し、お買い物や外食も気分転換になるので喜ばれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食など。普段行けないような場所については家族などの協力も必要な場合もあるので家族と相談しながら進めていきます。	天気が良い日には近隣への散歩に出かけて気分転換を図っておられます。また、2～3ヶ月に1回、近所のファミリーレストランにおやつを食べに出かける等、ストレス発散に努めておられます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の所持については無くなってしまう可能性もあることを家族に了解のうえでもってもらう。また買い物に出かけた時はレジで支払いをしていただくようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達とつながっている安心感は大切だとおもうので携帯電話を居室内で利用してもらえます。ホームのフロアの固定電話も利用できます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度、テレビの音、職員の声や動きにも配慮します。その季節にあった塗り絵や花壇に花を植えたりしています。	室温や湿度には特に気を付けながら、利用者が居心地よく生活できるような環境づくりに努めておられます。玄関には季節の花が飾られ、季節感のある暮らしに配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には中々難しくソファのある空間、又お気に入りの自席の提供。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手鏡、財布、かばん、数珠などが多いです。	利用者が自宅で使用していた小物や写真等の思い出の品々が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせる居室づくりに取り組んでおられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには便所、トイレと大きく表示し居室に表札をつけることで自分の部屋がわかりやすく行き来できていると思います。		